

研 修 報 告 書

令和 8 年 8 月 25 日

松阪市議会議長 沖 和哉 様

報告者 松阪市議会議員 田中正浩

1 研修の概要

- (1) 研修名 寝屋川市前副市長が教える 決算審議特別セミナー
- (2) 受講日 令和 8 年 8 月 20 日（木曜日）午前 1 0 時から午後 4 時まで
- (3) 開催場所 京都 JA ビル

京都府京都市南区東九条西山王町 1
- (4) 主催者 一般社団法人 地方議員研究会
- (5) 講師 市川 克美 氏 （前寝屋川市副市長）

1 研修の目的

自治体決算の審議において、行政側が重視する視点と決算委員会の実務を理解し、決算数値の確認にとどまらず、課題及び改善策を明らかにする質疑の組み立てを習得することを目的として受講した。決算審議で得た情報を翌年度予算、一般質問及び日常の議員活動へつなげる手法を学ぶことを目的として受講した。

2 研修日程及び内容

① 決算審議特別研修 1 時間 10:00～12:30

役所から見た決算委員会／ 議員がすべき決算の活かし方／

決算で聞くべきこと、聞いてはだめなこと／ 実例から学ぶだめな質疑／

② 決算審議特別研修 2 時間 13:30～16:00

役所に刺さる良い質疑の実例／ 行政の急所にテキサスヒットする質疑／

令和7年決算審議で必ず聞くべき事業／

決算審議と一般質問や議員活動への連動や勧め／

3 研修内容

(1) 役所から見た決算委員会

決算審議は、既に支出された金額の適否だけを確認する場ではなく事業目的に照らして成果が上がったのか、行政運営にどのような課題が残ったのかを検証する場であることを再度学習した。

行政側の説明を聞くのではなく、予算時の目的、執行過程、実績及び成果指標を一連の流れとしてとらえる必要があることを再度確認した。

(2) 決算を政策改善に活かす視点

決算書の数値を単年度で見るのではなく、前年度との増減、予算額との差、不用額、繰越額、財源構成及び事業量の変化を確認することが重要である。

さらに数値の変化の理由を住民サービスの成果や現場の実態と結び付け、
次年度の事業見直しにつながる問いを立てることが議員の役割であると理解した。

(3) 聞くべきことと、避けるべき質疑

資料を見ればわかる事実確認だけの質問、目的が不透明な細部の確認、結論
を誘導するだけの質問は、決算審議の効果を弱める。

事前に資料を調査し、問題意義と根拠を整理した上で「何が課題か」「なぜそ
のような結果となったか」今後どのように改善するのか」を段階的に問う
ことが、実効性のある質疑につながる。

(4) 行政の急所を的確に捉える質疑

良い質疑は、単に行政を批判するのではなく、事業目的と実績のずれ、
費用対効果、対象者への効果、類似事業との重複、将来負担等を具体的に示し、
行政側に検証と改善を促すものである。質問の目標を絞り、客観的な資料や
数値を根拠にして、答弁後の再質問まで組み立てる必要がある。

(5) 決算審議と一般質問・議員活動との連動

決算審査で明らかになった課題をその場限りにせず、翌年度予算への反映状況
を確認し、必要に応じて一般質問や政策提言へ発展させることが重要である。
予算、決算、一般質問、日常の住民相談を相互に結び付けることで、継続的な政
策検証が可能になることを学んだ。またこれらを起点とすることが議員の役割で
あるとの認識を深めた。

4 所感

今回の研修を通じて、決算審議は過去の支出を追認するためのものではなく、行政運営を検証し、次の政策判断へつなげる重要な機会であることを改めて確認した。

これまではおもに予算額、執行額などにこだわってきたが、数字を確認するだけでなく、その事業が住民生活にどのような成果をもたらしたか、当初の目的を達成できたかまで掘り下げる必要があることをあらためて学んだ。

特に印象に残ったのは、行政に届く質疑と、答弁を得るだけで終わる質疑との違いである。質疑の数や細かさではなく、事前調査に基づき論点を絞り、課題の原因と改善の方向性を明確にすることが重要である。決算審議で明らかになった課題を翌年度予算や一般質問へつなげ、改善状況を継続して確認することにより、議会の監視機能と政策提案機能を高めることができると感じた。今後は、決算関連資料を早い段階から分析するとともに、住民の声や現場の実情を踏まえた上で、松阪市の事業が市民福祉の向上に結び付いているかなどを検証していきたい。

また単なる批判や事実確認にとどまらず、執行部に具体的な検討と改善を促す質疑を今以上におこない、その結果を予算審査や一般質問及び議員活動に活かしていきたい。

以上